

第 1482 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 令和 4 年 1 2 月 2 2 日 木曜日

開会 10 時 00 分 閉会 11 時 30 分

2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

3 出席者	教 育 長	稲田 新吾
	委 員	奥野 史子
	委 員	高乗 秀明
	委 員	笹岡 隆甫
	委 員	野口 範子
	委 員	松山 大耕

4 欠席者 なし

5 傍聴者 1 名

6 議事の概要

(1) 開会

10 時 00 分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1481 回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件、報告 1 件

イ 非公開の承認

議案 1 件については、人事に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則第 3 条に掲げる「非公開事項」に該当するため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全員の承認が得られた。

ウ 非公開の宣言

教育長から、議案 1 件について、会議を非公開とすることを宣言。

エ 議決事項

オ 報告事項

報告 柏野・翔鸞小学校の統合要望書の提出について

(事務局説明 辻 学校統合推進室計画課 担当課長)

北区の柏野小学校においては、児童数減少を受け、同じ衣笠中学校区である上京区の翔鸞小学校との統合について、両校 P T A 及び両学区で協議を重ねてこられた。

その結果、子どもたちのより良い教育環境の充実のため「令和 7 年 4 月から柏野小学校を翔鸞小学校へ統合する」ことを柏野・翔鸞両学区で合意され、12 月 20 日、教育委員会に要望書を提出された。

要望書は、両学区の地域や P T A の代表者及び学校関係者で組織する「柏野・翔鸞小学校統合準備委員会」の代表である翔鸞住民福祉協議会 鎌田雅睦会長、副代表である柏野学区自治連合福祉協議会 中畠重男会長の連名で提出いただいた。

具体的な要望事項は 5 点あり、

1 点目は、令和 7 年 4 月から、柏野小学校を翔鸞小学校へ、翔鸞小学校の校名を変更することなく統合すること。現在の翔鸞小学校が統合校になるという要望である。

2 点目は、統合にあたっては、両校の教育内容を融合し再構築を図るなど、教育活動の充実に努めていただくとともに、翔鸞小学校において必要な施設を改修し、子どもたちがいきいきと活動できる教育環境を整備すること。

3 点目は、子どもたちや保護者が戸惑うことなく、安心して統合の日を迎えられるよう、十分な教育的配慮のもと、両小学校児童による事前交流など統合準備の取組を進めること。

4 点目は、通学路が変更となる柏野小学校区児童の通学安全対策については、地元や保護者はもとより関係機関とも十分連携して、万全を期すこと。

5 点目は、閉校となる柏野小学校については、地元の自治活動による利用に配慮するとともに、跡地活用については、地元の意向を反映して進めること。

以上のような内容であった。

次に、要望書提出に至るまでの検討の経過について、ご説明する。

①長期に渡る児童数減少が続いた柏野小学校では、平成 24 年度から P T A において、子どもたちの教育環境改善についての検討を進められ、平成 29 年 2 月に「学校統合の実現に向けた取組を推進すること」を臨時総会で決議された。

平成 29 年 5 月には、柏野小学校の学校運営協議会で、P T A が決議内容を報告され、学校運営協議会は P T A 決議に賛成され、その旨を住民に周知された。

②翔鸞小学校 P T A は、平成 29 年 3 月に柏野小学校 P T A から統合検討の依頼を受け、特別委員会を設置して協議や説明会を重ねられ、平成 31 年 3 月に「柏野小学校との統合について前向きに両校で話し合いを始めること」を臨時総会で決議された。

③平成 31 年 4 月から両校 P T A 代表者で協議を重ねられ、令和元年 10 月には「柏野小学校と翔鸞小学校の学校統合が望ましい」という方向性を確認された。令和 2 年 2 月には、翔鸞小 P T A から翔鸞住民福祉協議会に、両校の統合について検討を依頼されたが、

新型コロナウイルス感染症の拡大により継続的な協議が困難となった。

④令和4年度になり両地域で協議を進められ、翔鸞学区では、翔鸞住民福祉協議会とPTA代表者による翔鸞小学校統合問題検討委員会で、7月に統合推進の方向性を確認され、柏野学区では、柏野学区自治連合福祉協議会で、9月に統合推進の方向性を確認され、どちらの地域においても住民に周知された。

⑤10月には、両地域と両校PTAの代表者及び学校関係者による「柏野・翔鸞小学校統合準備委員会」を発足され、令和4年11月22日に開催された第2回会議において、これまでの地域での議論やPTA決議を踏まえ、「令和7年4月に、柏野小学校を翔鸞小学校へ校名変更することなく統合する」ことを最終合意され、要望書の提出に至った。

本市では、これまでから、地元からの御要望を最大限に尊重して学校統合を進めているところであり、今回の柏野・翔鸞両地域の方々の御要望の趣旨を踏まえ、また、市会の御理解・御支援を頂きながら、令和7年度の統合に向けて、翔鸞小学校の一部施設改修や、柏野小学校区児童の通学安全対策、統合校の教育内容の検討などを進めてまいりたいと考えている。

本年度、柏野小学校は、北部山間地域を除く京都市立小学校で最も児童数の少ない小学校であり、現在は両校とも全学年で単級となっているが、令和7年度の統合時には、全学年2学級となる見込みである。

統合した際には、翔鸞小学校の所在地がほぼ中央となる位置関係となっており、当初から統合校の場所としては翔鸞小学校を想定した協議が進められてきた。

今後、地域や保護者の皆様方の願いや期待に応えられるよう、また、統合して良かったと思っていただけるような新しい学校づくりに取り組んでまいらる。

(委員からの主な意見)

【奥野委員】 柏野学区の方々にとっては平成24年から取り組まれてきて、ようやくたどり着かれた要望書提出となるので、しっかり統合を進めていただきたい。翔鸞小は元々1,800人以上在籍していたとのことだが、教室等のスペースは十分にあるということか。

【事務局】 1,800人ほど在籍していた当時は、現在の状態ではなく、校舎が2棟あったため比較はできない。現校舎は約10年前に長寿命化工事をしており、教室の配置替え等は必要だが、必要なスペースは確保できる。

【奥野委員】 街中でとてもいい場所だと思うが、子どもの数が減っていることに驚きを感じる。要望書にもあるが、教育内容の充実をお願いしたい。

【松山委員】 私が住む御室学区は交通が不便であるため、あまり子どもが私立小学校に行かないように感じている。翔鸞学区では多くの子どもが私立小学校に進学しているのか。

【事務局】 児童数と未就学児数の推移を調査しているが、翔鸞小学校では、小学校入学段階で人数が大きくは減っていない状況。

【笹岡委員】 閉校した後も地元の自治活動によって利用されるとあるが、閉校した学校は、地域でどのように使用されているのか。

【事務局】 サッカーなど子どもたちのスポーツ活動や、自治連等の団体による催し等の自治活動で使用されている。災害時等の避難所としての機能もある。

- 【野口委員】 統合する場合、配置する教職員の数はどのようになるのか。
- 【事務局】 現在、両校とも全学年1学級のところ、令和7年度の統合時には2学級となるので、その分の担任数として教員増となる。2校が1校になるため、養護教諭や管理用務員等の数は減ることになるが、1学年2学級となることで、一つの学年を2人の担任で業務を分担できるなどメリットが多い。
- 【高乗委員】 両校がこれまで積み上げてきた教育実践が統合校に反映されるように、今回の統合を良い意味での契機として、新しい学校づくりに取り組んでもらえたらありがたい。行政区をまたぐ統合となるが特に課題はあるのか。
- 【稲田教育長】 柏野小は北区で翔鸞小は上京区と行政区の違いがあるが、同じ衣笠中学校区で、小学校同士の統合を優先して考えられ、2校統合の協議が進んできた。
- 【事務局】 元々は衣笠中学校区全体が上京区だったが、昭和30年に北区が新しくできた際に行政区が別々となった。統合協議でも行政区をまたぐことについては課題として挙がっていたが、二つの行政区をまたぐ例としては御所東小のケースもあり、参考にしながら行政機関等との連携を図っていきたいと考えている。
- 【稲田教育長】 統合の話が出ると、学区が無くなる、という不安の声を聞くことがあるが、学区が無くなるということはない。
- 【笹岡委員】 自治活動は一つにはならないということか。
- 【事務局】 これまでの統合でも自治連などの地域団体が一つになった事例はない。ただ、子ども向けのイベントは対象範囲を広げるなど、地域団体同士で連携できる可能性があると考えている。

(3) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

12月10日 市立高校グローバルフェスタ2022

12月10日 第25回京都市PTAフェスティバル

12月21日 教育福祉委員会

○事務局から当面の日程について説明

(4) 閉会

11時30分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長